

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「人物の気持ちの変化を伝え合おう」 教材名「ごんぎつね」

2 単元の目標

気持ちや性格、情景を表す語句の意味を確かめ、人物の説明の中で使える。ごんの気持ちの変化を、兵十との関係や場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①気持ちや性格、情景を表す語句の意味を確かめ、人物の説明の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、ごんの気持ちの変化を、兵十との関係や場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

ごんの行動や気持ちの変化を、兵十との関係と場面の移り変わりから想像する。最後の出来事だけで結論を決めず、前の場面の行動と情景を読み合わせる。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

人物ごとに「したこと」「知っていること」「想像した気持ち」を分ける。前の場面と関係付ける線には、何がきっかけかを添える。言葉の引用は原本から教師が書き入れる。おおむね満足できる状況は、ごんの気持ちの変化を、兵十との関係や場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全13時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、人物と出来事、初めの感想を記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○前半の行動と気持ちを読み、変化のきっかけを考える。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○中盤の行動を読み、ごんの思いと兵十が知っていることを分ける。	学習状況を見て支援する。
	7～8	○後半の行動や情景を読み、前の場面との関係を確認する。	学習状況を見て支援する。
	9 （本 時）	○最後の場面の気持ちを前の行動と結び付け、人物ごとの違いを話す。	思①（発言・学習記録）
	10～11	○気持ちの変化を文章にまとめ、根拠を読み合う。	学習状況を見て支援する。
	12	○交流を受けて物語を読み直し、説明を直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	13	○初めの感想と比較し、場面を結び付けて想像したことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (9/13)

(1) 本時の目標

ごんの気持ちの変化を、兵十との関係や場面の移り変わり結び付けて具体的に想像できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この場面のごんの気持ちは、前のどんな行動や出来事と関係していますか。兵十の受け止め方と比べるとどうですか」 【めあて】ごんの行動や気持ちの変化を、兵十との関係と場面の移り変わりから想像する。 〈予想される児童の反応〉 ・ごんの思いと兵十に伝わっていることは同じではない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この場面のごんの気持ちは、前のどんな行動や出来事と関係していますか。兵十の受け止め方と比べるとどうですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ごんの思いと兵十に伝わっていることは同じではない。 ・前の行動を思い出すと、最後の気持ちを別の言葉で考えられる。 ・情景の言葉も想像の手がかりになる。	人物ごとに「したこと」「知っていること」「想像した気持ち」を分ける。前の場面と関係付ける線には、何がきっかけかを添える。言葉の引用は原本から教師が書き入れる。 想定する難しさ：ごんと兵十の知っていることを混ぜる。最後の場面だけから、ごんの行動の意味を決める。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① ごんの気持ちの変化を、兵十との関係や場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・情景の言葉も想像の手がかりになる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この場面のごんの気持ちは、前のどんな行動や出来事と関係していますか。兵十の受け止め方と比べるとどうですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

